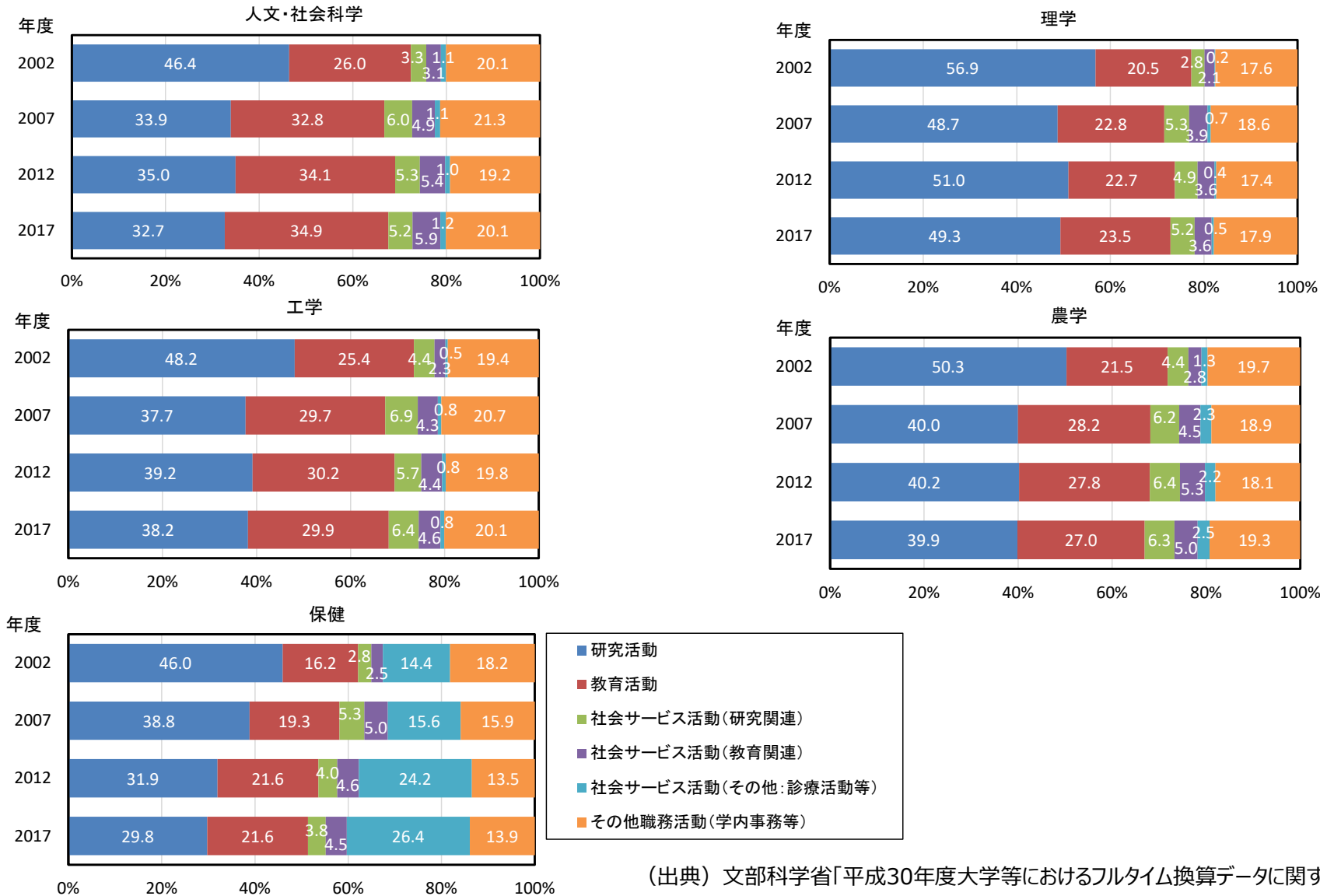


大学等教員の職務活動時間割合の推移（分野別）

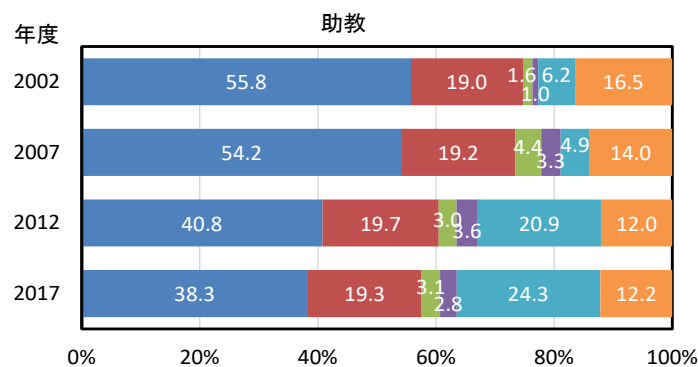
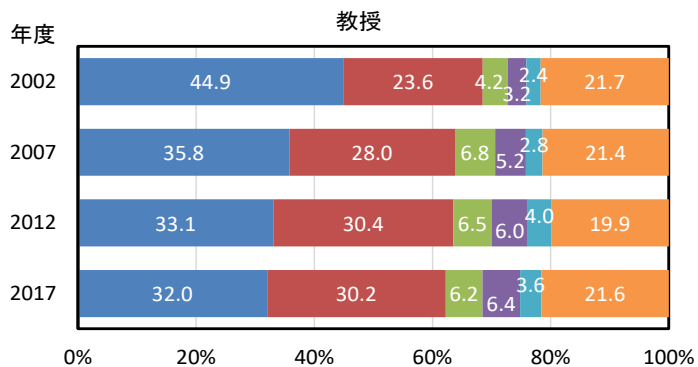
2012年度から2017年度にかけて、全分野で「**その他職務活動（学内事務等）**」の割合は微増。
 2012年度から2017年度にかけて、全分野で「**研究活動**」の割合は減少。



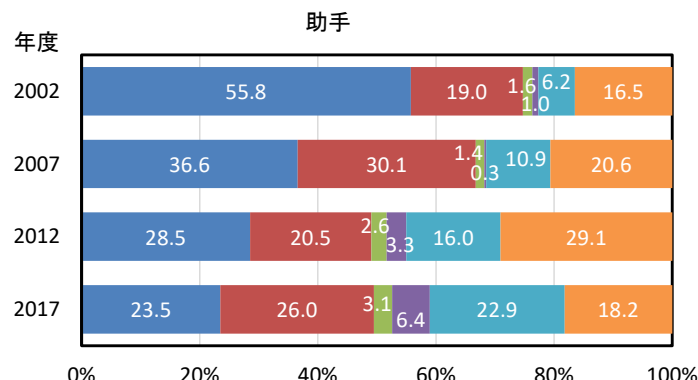
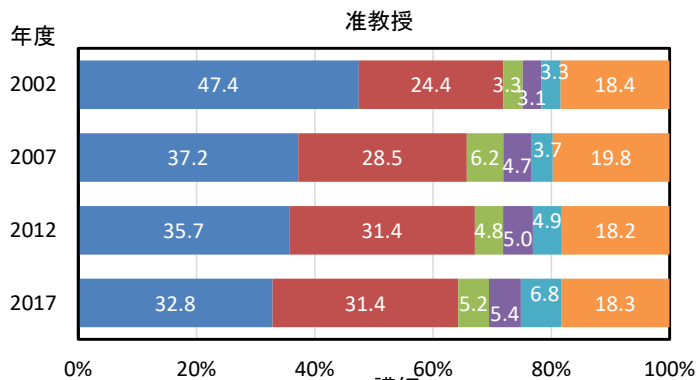
(出典) 文部科学省「平成30年度大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」を基に作成。

大学等教員の職務活動時間割合の推移（職位別）

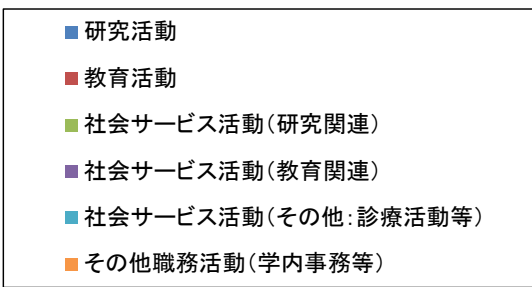
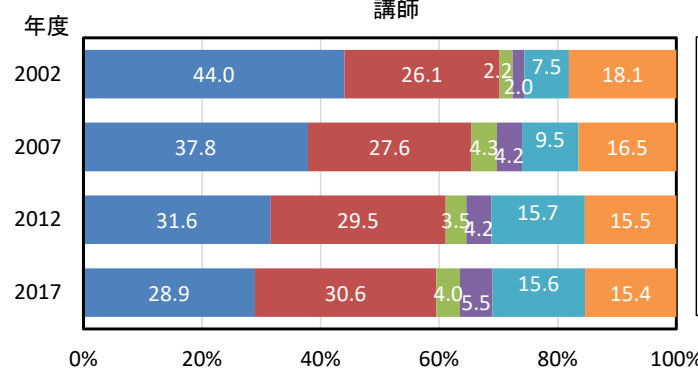
職務活動に占める「研究時間」の割合が最も大きいのは助教であり、「その他職務活動（学内事務等）」の割合が最も小さいのも助教である。どの職位についても「研究時間」の割合は減少傾向にあり、教授では「教育活動」の、准教授、講師では「教育活動」と「社会サービス活動（その他：診療活動等）」の、助教では「社会サービス活動（その他：診療活動等）」の割合がそれぞれ増加傾向にある。



注1) 2007年度は、旧助手のうち
の助教
注2) 2002年度は、旧助手
(助手と同じデータ)



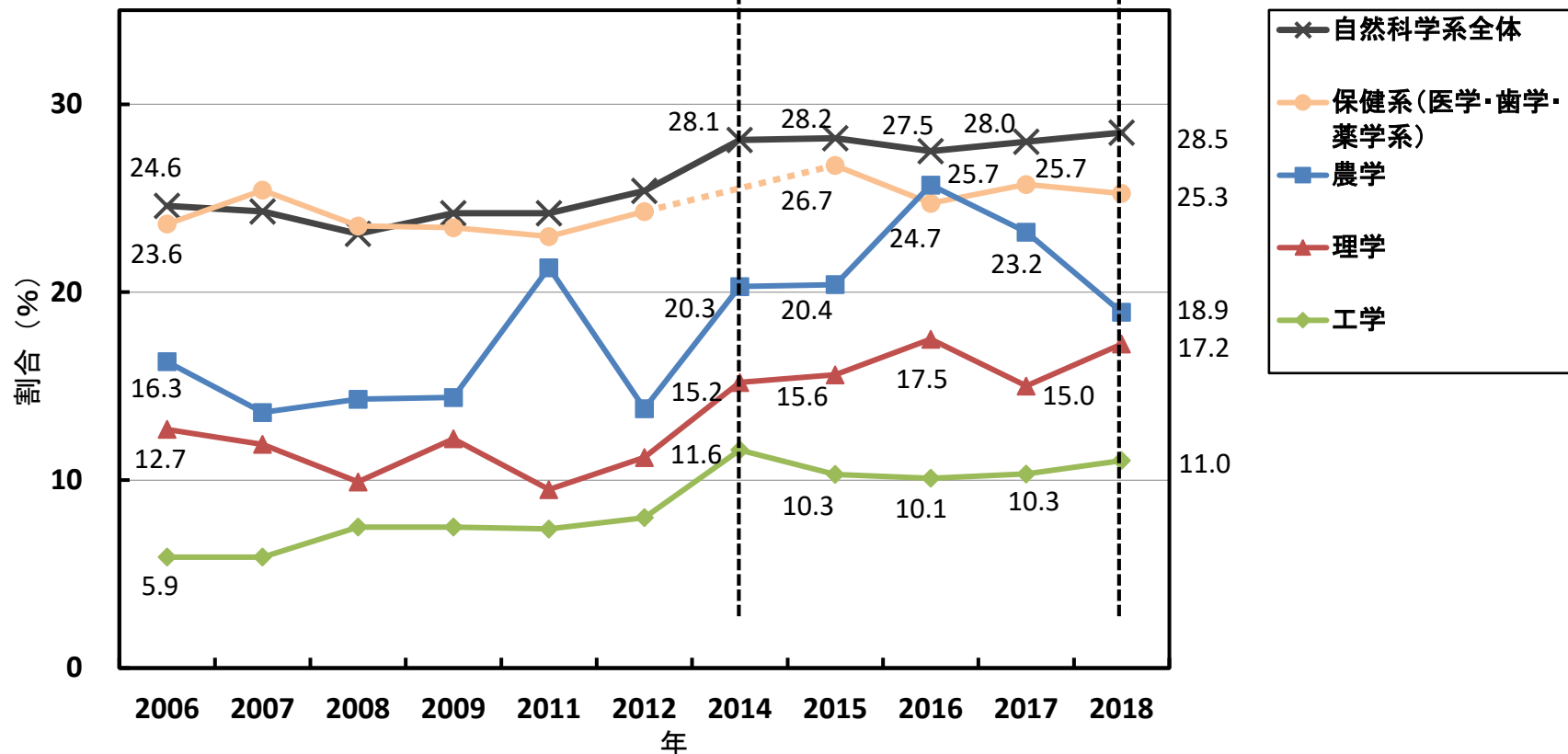
注1) 2007年度は、旧助手のうち
の助手
注2) 2002年度は、旧助手
(助教と同じデータ)



(出典) 文部科学省「平成30年度大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」を基に作成。

A) 過去の値 (5年前程度)	B) 最新値	A) から B) の 増減傾向	6期基本計画 の目標値
研究者（女性大学教員）の採用割合： 理学系15.2%、工学系11.6%、 農学系20.3%、医学・歯学・薬学系 24.3%【2014年（※医学・歯学・薬学系 のみ2012年）】	理学系17.2%、工学系11.0%、 農学系18.9%、医学・歯学・薬学 系合わせて25.3%【2018年】	↑	理学系20%、工学系15%、 農学系30%、医学・歯学・薬学系合 わせて30%、人文科学系45%、社会 科学系30%【2025年度迄】

研究者（女性大学教員）の採用割合（自然科学系）



(出典) 内閣府「令和2年度 女性の政策・方針決定参画状況調べ」を基に作成。

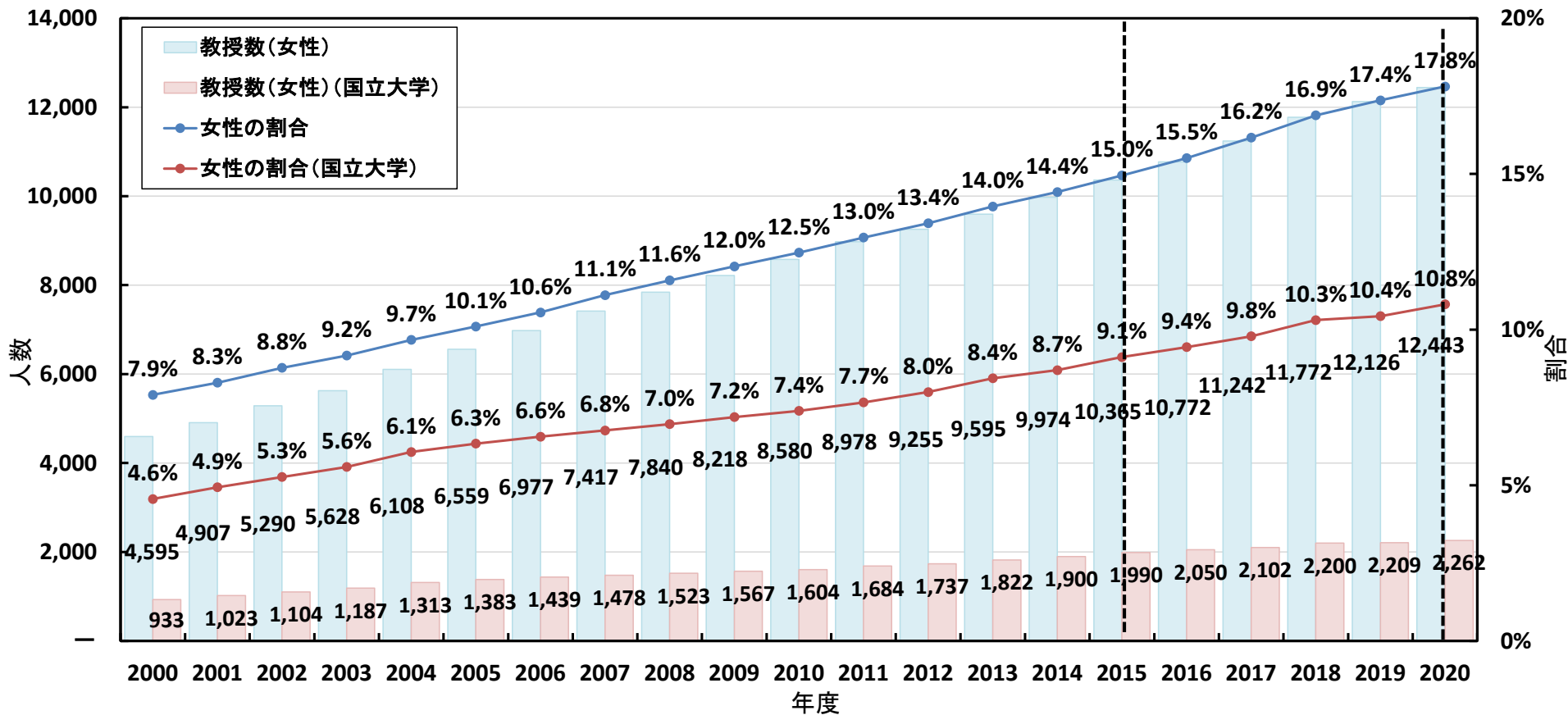
研究者（女性大学教員）の採用割合（人文社会系、社会科学系含む分野別）

第6期基本計画中に主要目標として設定されている人文科学系、社会科学系の数値は文部科学省調べにより把握されているが公開されていないため、文部科学省へ照会が必要である。

○ 大学教員のうち、教授等（学長、副学長、教授）に占める女性割合

A) 過去の値 (5年前程度)	B) 最新値	A) から B) の 増減傾向	6期基本計画 の目標値
教授等（学長、副学長、教授）に占める女性割合：14.8%【2015】	17.7%【2020】	↗	【早期】20% 【2025年度迄】23%

教授に占める女性人数・割合

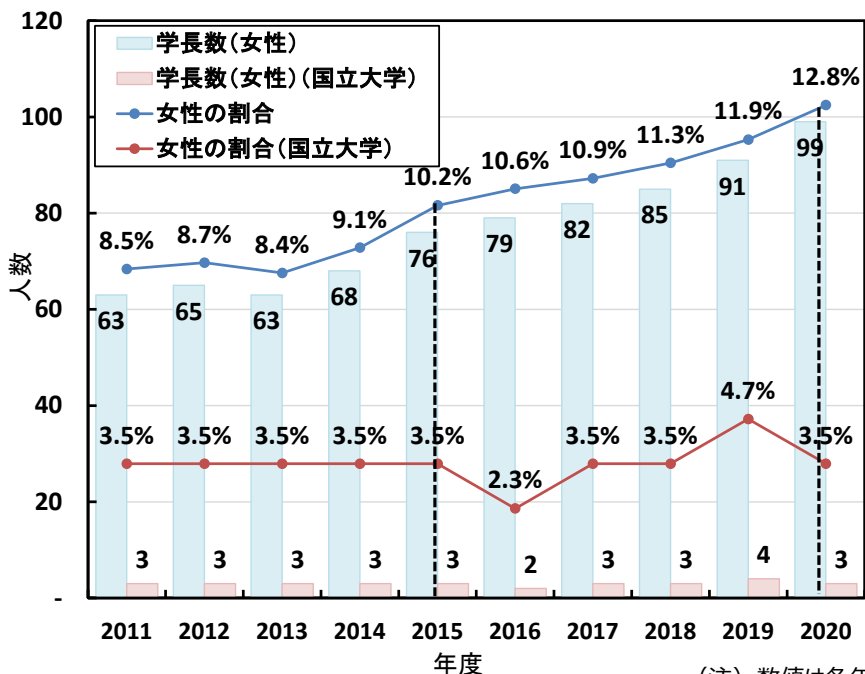


(注) 数値は各年度の5月1日現在。

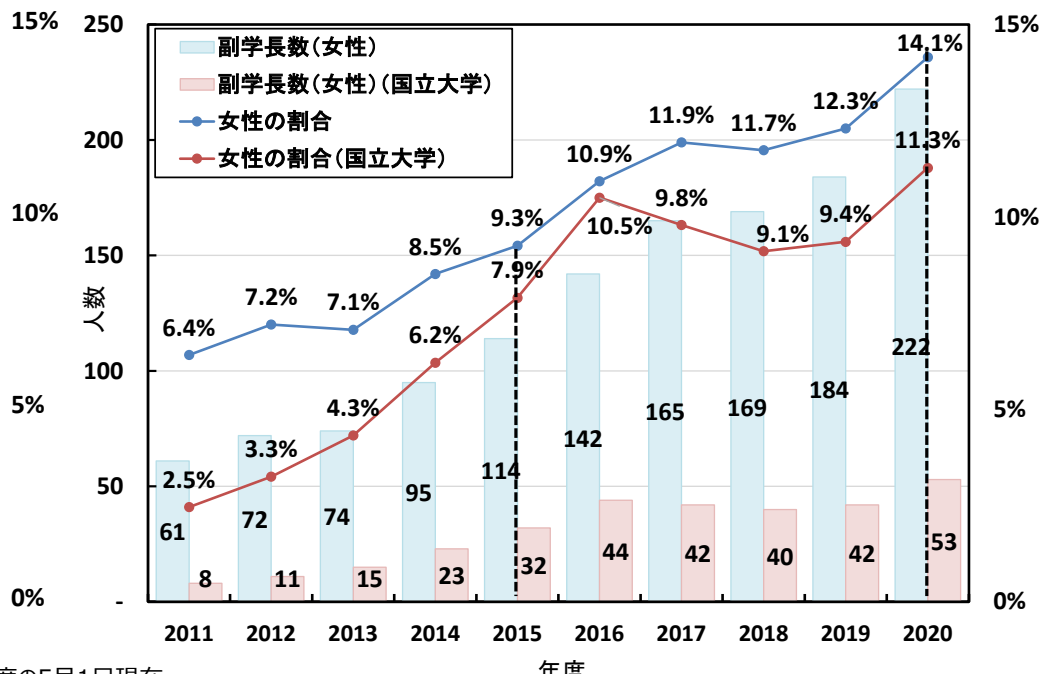
(出典) 文部科学省「学校基本調査」を基に作成。

A) 過去の値（5年前程度）	B) 最新値	A) から B) の増減傾向	6期基本計画の目標値
学長に占める女性の人数：76人【2015】	99人【2020】	↗	—
学長に占める女性の割合：10.2%【2015】	12.8%【2020】	↗	
学長に占める女性の人数（国公立大学）：3人【2015】	3人【2020】	→	
学長に占める女性の割合（国公立大学）：3.5%【2015】	3.5%【2020】	→	
副学長に占める女性の人数：114人【2015】	222人【2020】	↗	
副学長に占める女性の割合：9.3%【2015】	14.1%【2020】	↗	
副学長に占める女性の人数(国公立大学)：32人【2015】	53人【2020】	↗	
副学長に占める女性の割合（国公立大学）：7.9%【2015】	11.3%【2020】	↗	

学長に占める女性の人数・割合



副学長に占める女性の人数・割合



(注) 数値は各年度の5月1日現在。
 (出典) 文部科学省「学校基本調査」を基に作成。

大学教員のうち、教授等（学長、副学長、教授）に占める女性割合（大学別）

女性研究者の活躍促進に関する取組は大学別に多様かつ取組度合いも大きく異なるため、「大学別」の内訳分析が必要である。ただし、文部科学省「学校基本調査」で大学別人数は把握されているが公開されていないため、文部科学省へ照会が必要である。

A-1 基本計画の目標が達成されているか。

① 指標の概況（内訳等分析を含む分析結果）

対応するロジックチャートの要素	指標	目標達成※1	時系列変化※2	内訳等分析から明らかになった点
多様な研究者が、多様な主体と活発な知的交流を図り、研究の多様性が進む	Ⓧ【参考指標】 民間企業を含めた全研究者に占める女性研究者の割合	—	好転	<ul style="list-style-type: none"> 女性研究者の割合は増加（14.7%【2014年度】→16.9%【2019年度】）しているものの、国際的には大きな遅れを取っている。 国際的に大きな遅れを取っているのは、企業における女性研究者（特に工学）の割合が小さいためである。
	Ⓨ【参考指標】 大学本務教員に占める女性研究者の割合	—	好転	<ul style="list-style-type: none"> 女性教員の割合は増加（23.2%【2015年度】→25.9%【2020年度】）。 いずれの職位でも女性教員数は増加傾向。2015年度から2020年度にかけては「教授」、「助教」数の増加が全数の増加に大きく影響している。 女性研究者の活躍促進に関する取組は大学別に多様かつ取組度合いも大きく異なるため、「大学別」の内訳分析が必要であるが、非公開データのため分析未実施。
	Ⓩ【参考指標】 博士後期課程在籍者に占める女性の割合（分野別）	—	停滞	<ul style="list-style-type: none"> 人文科学系における割合が最も大きく53%、次いで社会科学系37%、農学系36%、医・歯・薬学系31%、理学系20%、工学系19%と続く。 社会科学系、工学系、農学系、医・歯・薬学系で1-2ポイント増加。 女性研究者の活躍促進に関する取組は大学別に多様かつ取組度合いも大きく異なるため、「大学別」の内訳分析が必要であるが、非公開データのため分析未実施。
研究者の研究時間が確保される	ⓓ【主要指標】 大学等教員の職務に占める学内事務等の割合	課題あり	悪化	<ul style="list-style-type: none"> その他職務活動（学内事務等）の割合は増加しており、目標達成は困難（2025年度までに半減）。 分野別ではその他職務活動（学内事務等）の割合はいずれも微増、職位別では教授が増加。 職務に占める学内事務等の割合には、大学による機関としての取組状況が大きく影響するため、「大学別」の内訳分析が必要であるが、非公開データのため分析未実施。
研究人材の多様性が確保される	ⓓ【主要指標】 大学における女性研究者の新規採用割合	課題あり	好転	<ul style="list-style-type: none"> 女性研究者の新規採用割合は医学・歯学・薬学系、理学系で増加、農学、工学で減少しており、目標達成は困難（2025年度までに理学系20%、工学系15%、農学系30%、医学・歯学・薬学系合わせて30%、人文科学系45%、社会科学系30%）。 人文科学系、社会科学系の数値は非公開データのため分析未実施。
	Ⓧ【主要指標】 大学教員のうち、教授等（学長、副学長、教授）に占める女性割合	課題あり	好転	<ul style="list-style-type: none"> 教授等に占める女性割合は増加しているが、同様の増加率が続く場合目標達成は困難（早期に20%、2025年度までに23%）。 教授、副学長それぞれに占める女性割合では国立大学の伸びが小さく（9.1%【2015年度】→10.8%【2020年度】）、学長は横ばい。 女性研究者の活躍促進に関する取組は大学別に多様かつ取組度合いも大きく異なるため、「大学別」の内訳分析が必要であるが、非公開データのため分析未実施。
多くの研究者が、海外研さん・海外経験を積み、海外研究者とのネットワークを構築する	設定なし	※1「目標達成」は基本計画で示された目標の達成可能性について記述。 課題あり 達成見込み —	※2「時系列変化」は直近5年程度の変化を踏まえて記述。 好転：目標達成やさらなる進展につながる方向に変化している状況 悪化：目標達成やさらなる進展につながる方向とは逆に変化している状況 停滞：大きな変化がなく横ばいの状況 不明：過去データがなく時系列変化が不明の場合	

※3 これらはいずれも計画開始時点（2021年度）で得られるデータをもとに整理したもの。今後の状況変化によって概況も変わり得る。基本計画に紐づく施策群の推進による今後の効果等は含まれていない。

A-1 基本計画の目標が達成されているか。

- ② 設定されている指標以外に追加データ（追加指標候補案）を収集して達成状況の分析を実施
- ・ ダイバーシティの観点として、女性以外に外国人や社会人を見る。
 - ・ 研究支援人材について全体像を把握する。

【専調ご意見】ダイバーシティを女性活躍のみで考えず、国籍、経験等の観点も。

【専調ご意見】グローバルのダイバーシティ観点は重要。

対応するロジック チャートの要素	追加指標等候補（案）	データ/情報出典等	
多様な研究者が、多様な主体と活発な知的交流を図り、研究の多様性が進む	(1) 女性研究者による論文の推移		第1回専調論点
	(2) 研究者に占める女性の割合（国際比較）	男女共同参画白書（ソースは総務省「科学技術研究調査」、OECD、NSF他）	
	(3) 専門分野別女性研究者数	男女共同参画白書（ソースは総務省「科学技術研究調査」）	
	(4) 国際共著論文の割合		海外との交流の成果を把握する。
	(5) 国立大学の外国人教員数の推移（職階別）	学校基本調査	女性以外のダイバーシティを見る。
	(6) ポストドクターの外国人割合	ポストドクター等の雇用・進路に関する調査	女性以外のダイバーシティを見る。
	(7) 博士課程学生の外国人割合	学校基本調査	女性以外のダイバーシティを見る。
	(8) 大学院の社会人学生数	学校基本調査	女性以外のダイバーシティを見る。 （本データは分析項目1でもとりあげている）
研究者の研究時間が確保される	(9) 研究時間の増減	大学等におけるフルタイム換算データに関する調査	第1回専調論点 ※主要指標M参照
	(10) 研究従事者数（FTEベース）		第1回専調論点
	(11) 外部研究資金の獲得に必要な業務の時間	大学等におけるフルタイム換算データに関する調査	外部研究資金獲得の負担状況を見る。
	(12) 研究者の支援体制（URA、エンジニア等）		第1回専調論点 研究時間確保に資する研究支援者の状況
	(13) 研究支援人材	科学技術研究調査	研究時間確保に資する研究支援者の状況
	(14) TA_RA学生数（全在籍者数に占める比率）	各大学院における「大学院教育振興施策要綱」に関する取組の調査結果	研究時間確保に資する研究支援者の状況

A-1 基本計画の目標が達成されているか。

②設定されている指標以外に追加データ（追加指標候補案）を収集して達成状況の分析を実施

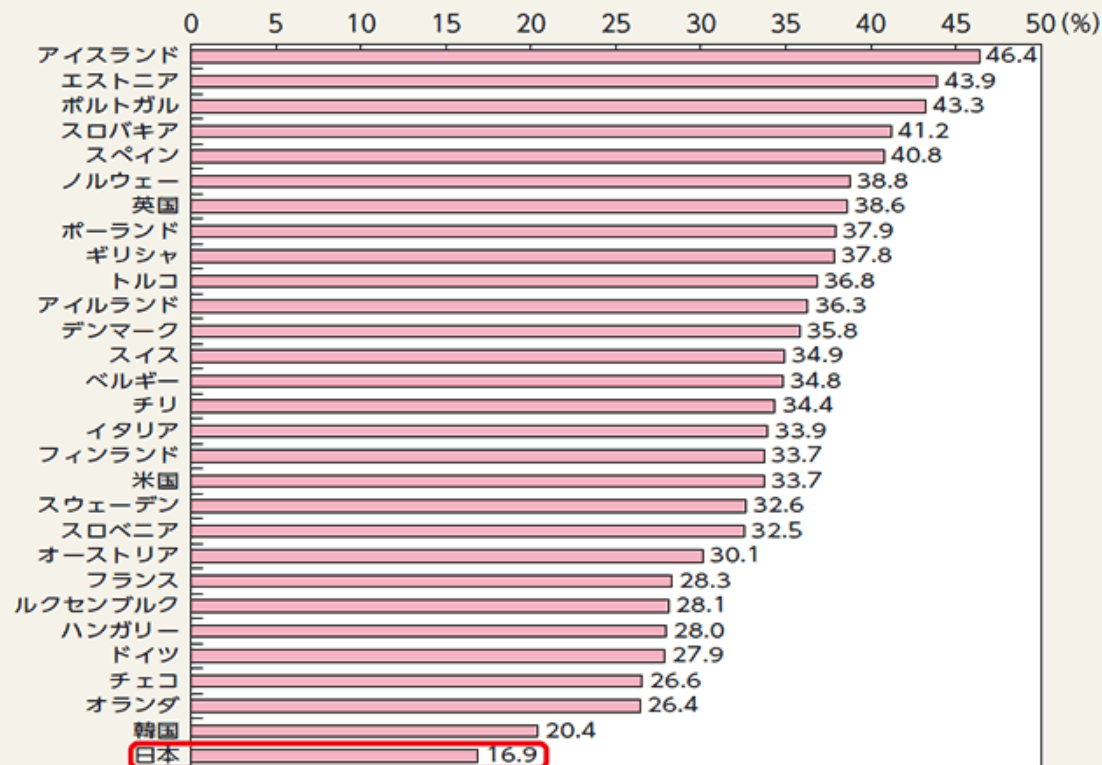
対応するロジックチャートの要素	追加指標等候補（案）	データ/情報出典等	備考
研究人材の多様性が確保される	(15) 女性研究者の研究費の推移 （女性研究者の科研費取得の状況）		第1回専調論点
	(16) 年齢階層別女性教員離職者数	学校教員統計調査	女性研究者になってからの状況を見る。
	(17) 女性研究者が活躍するための採用・昇進等の人事システムの工夫	NISTEP定点調査	女性研究者になってからの状況を見る。
	(18) ライフステージに応じた支援充実度	NISTEP定点調査	女性研究者になってからの状況を見る。
	(19) 好きな科目（小学生・中学生，男女別）	男女共同参画白書（ソースはベネッセ教育総合研究所「第5回学習基本調査」）	女性研究者を増やすためには前段階からのパイプラインを考慮する必要がある。
	(20) 文系・理系に対する意識（中学生，男女別）	内閣府「女子生徒等の理工系進路選択支援に向けた生徒等の意識に関する調査研究（平成29年度）」	（要検討、単発調査） 女性研究者を増やすためには前段階からのパイプラインを考慮する必要がある。
多くの研究者が、海外研さん・海外経験を積み、海外研究者とのネットワークを構築する	(21) 国際共同研究の研究費		第1回専調論点 ※要検討
	(22) 研究者の国際交流（受入、実数）	研究者の交流に関する調査（国際研究交流の概況）	第1回専調論点
	(23) 研究者の国際交流（派遣、実数）	研究者の交流に関する調査（国際研究交流の概況）	第1回専調論点
	(24) 優秀な外国人研究者を受け入れ、定着させるための取組	NISTEP定点調査	
	(25) 海外の大学・研究機関との研究に関する協定数	研究者の交流に関する調査（国際研究交流の概況）	
	(26) 大学が外国企業から受け入れている共同研究費	文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」	

現時点では当該データ/情報はない。

個人レベルで論文数と性別を結合する必要があり、将来的にe-CSTIによるデータ取得可能性検討。

研究者に占める女性の割合は国際的に低い水準にある。

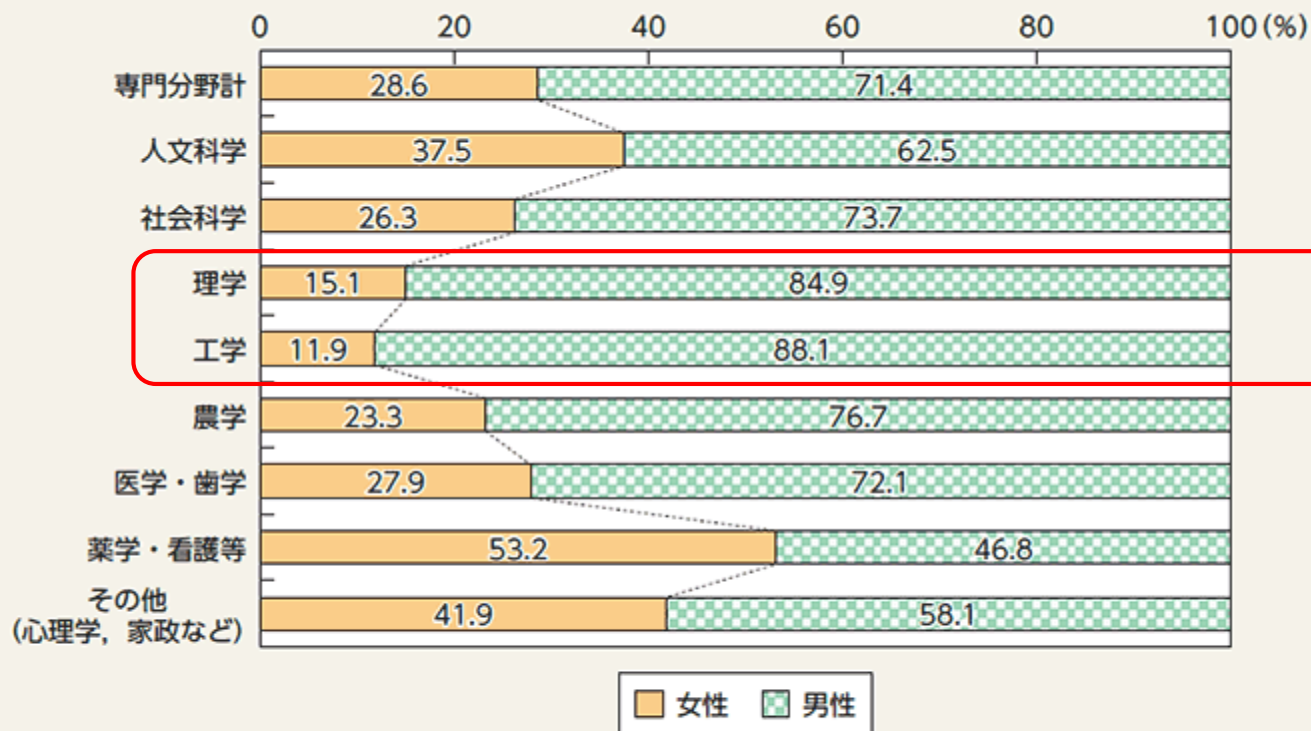
I-5-7図 研究者に占める女性の割合（国際比較）



- (備考) 1. 総務省「科学技術研究調査」(令和2年), OECD“Main Science and Technology Indicators”, 米国国立科学財団(National Science Foundation: NSF)“Science and Engineering Indicators”より作成。
2. 日本の数値は, 令和2(2020)年3月31日現在の値。アイスランド, ギリシャ, アイルランド, デンマーク, スイス, ベルギー, 米国, スウェーデン, オーストリア, フランス, ルクセンブルク, ドイツ及びオランダは平成29(2017)年値, その他の国は, 平成30(2018)年値。推定値及び暫定値を含む。
3. 米国の数値は, 雇用されている科学者(Scientists)における女性の割合(人文科学の一部及び社会科学を含む)。技術者(Engineers)を含んだ場合, 全体に占める女性科学者・技術者の割合は29.0%。

理学、工学で女性研究者が少ない。

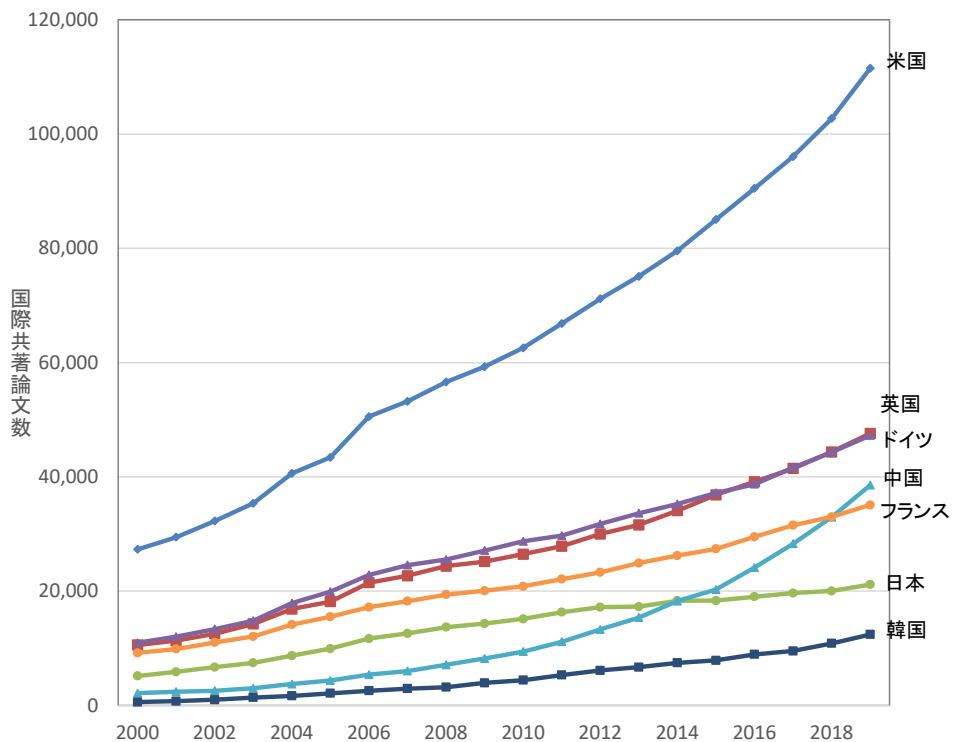
I-5-9 図 専門分野別に見た大学等の研究本務者の男女別割合（令和2（2020）年）



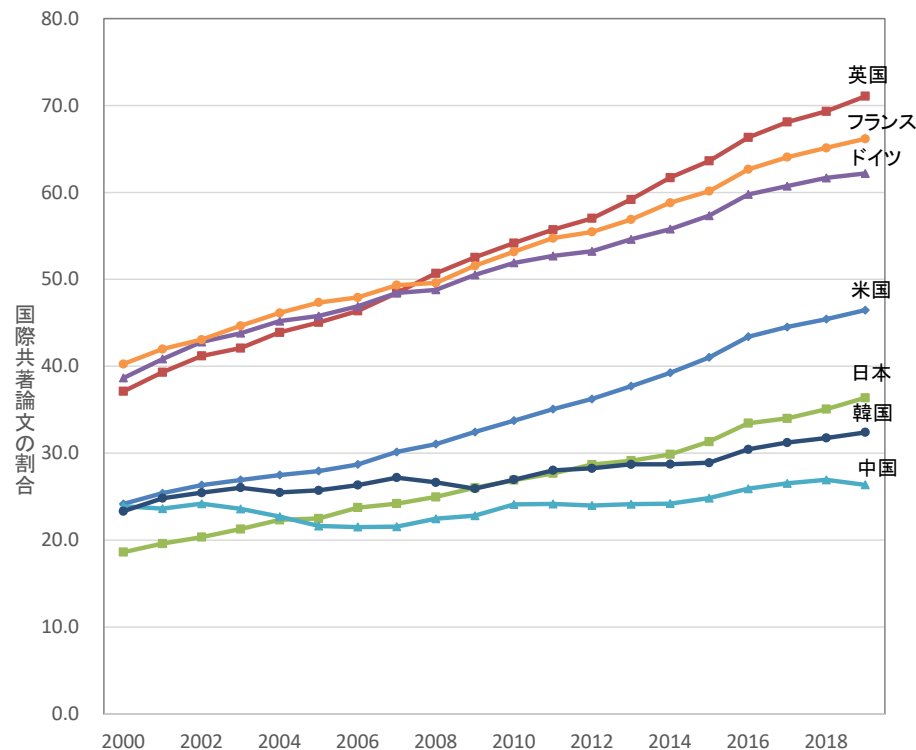
- (備考) 1. 総務省「科学技術研究調査」(令和2年)より作成。
2. 「大学等」は、大学の学部(大学院の研究科を含む)、短期大学、高等専門学校、大学附置研究所及び大学共同利用機関等。
3. 令和2年3月31日現在。

我が国の国際共著論文数は増加しているが、割合は欧米に達していない。

国際共著論文数



国際共著論文の割合



(注1) article, reviewを分析対象とし、整数カウント法により分析。

(注2) 年の集計は出版年 (Publication year, PY) を用いた。

(注3) 国内論文は、単一の機関による論文及び同一国の複数の機関による共著論文を指す。

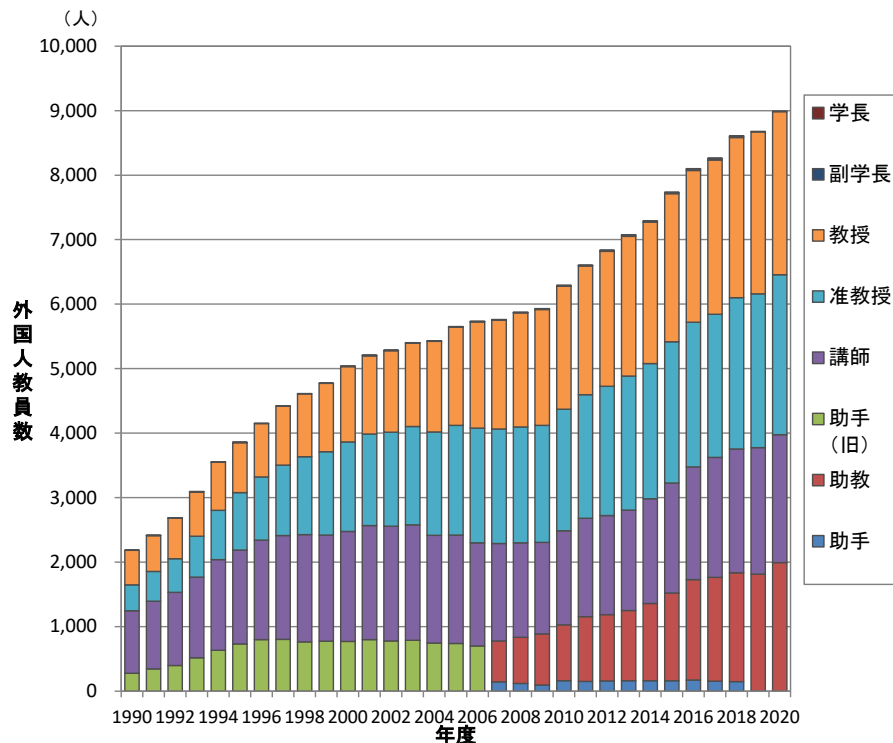
国際共著論文は異なる国の機関による共著論文を指す。

(注4) トムソン・ロイター Web of Science XML (SCIE, 2020年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。

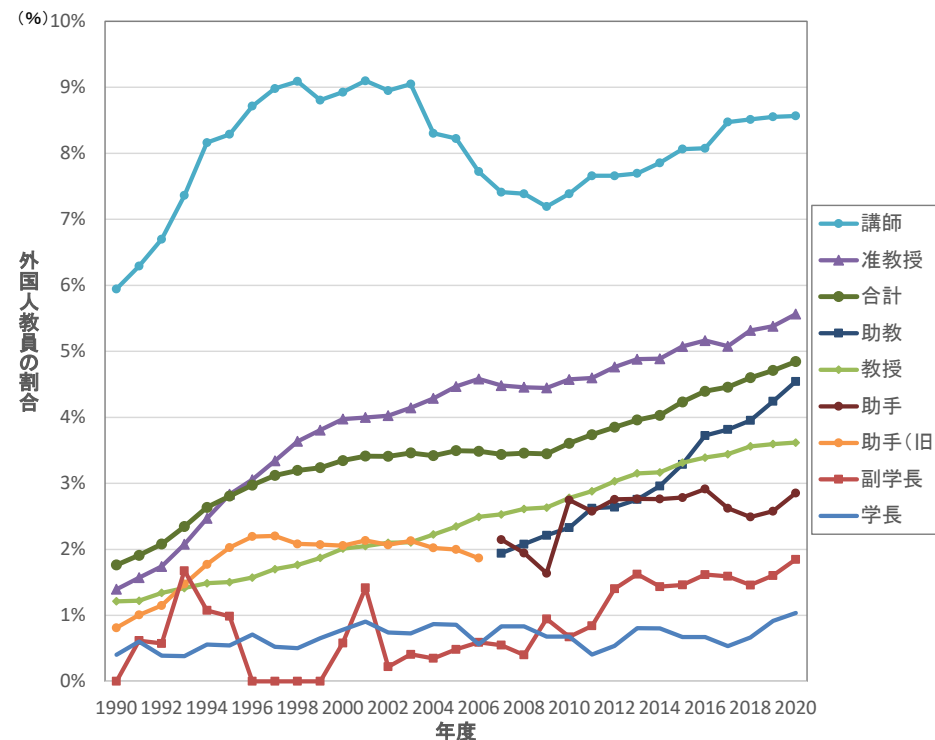
(出典) 文部科学省 科学技術・学術政策研究所、調査資料-311、科学技術指標2021、2021年8月

外国人教員数は増加傾向にあり、講師、准教授で割合が高い。

外国人教員数



外国人教員比率

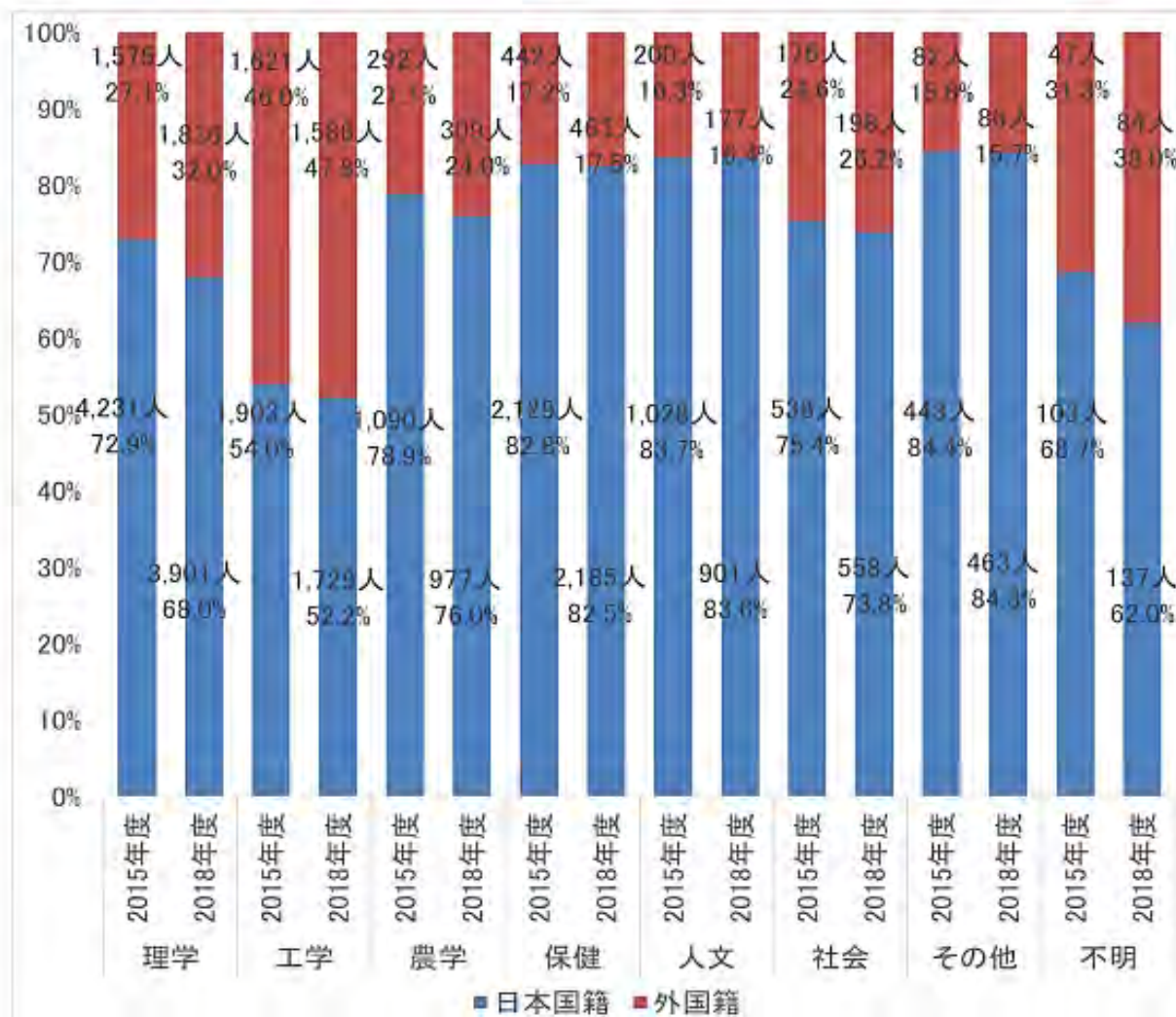


(注1) 数値は各年度の5月1日現在。

(出典) 文部科学省「学校基本調査」を基に作成。

ポストドクターの外国人割合は特に工学で多い。

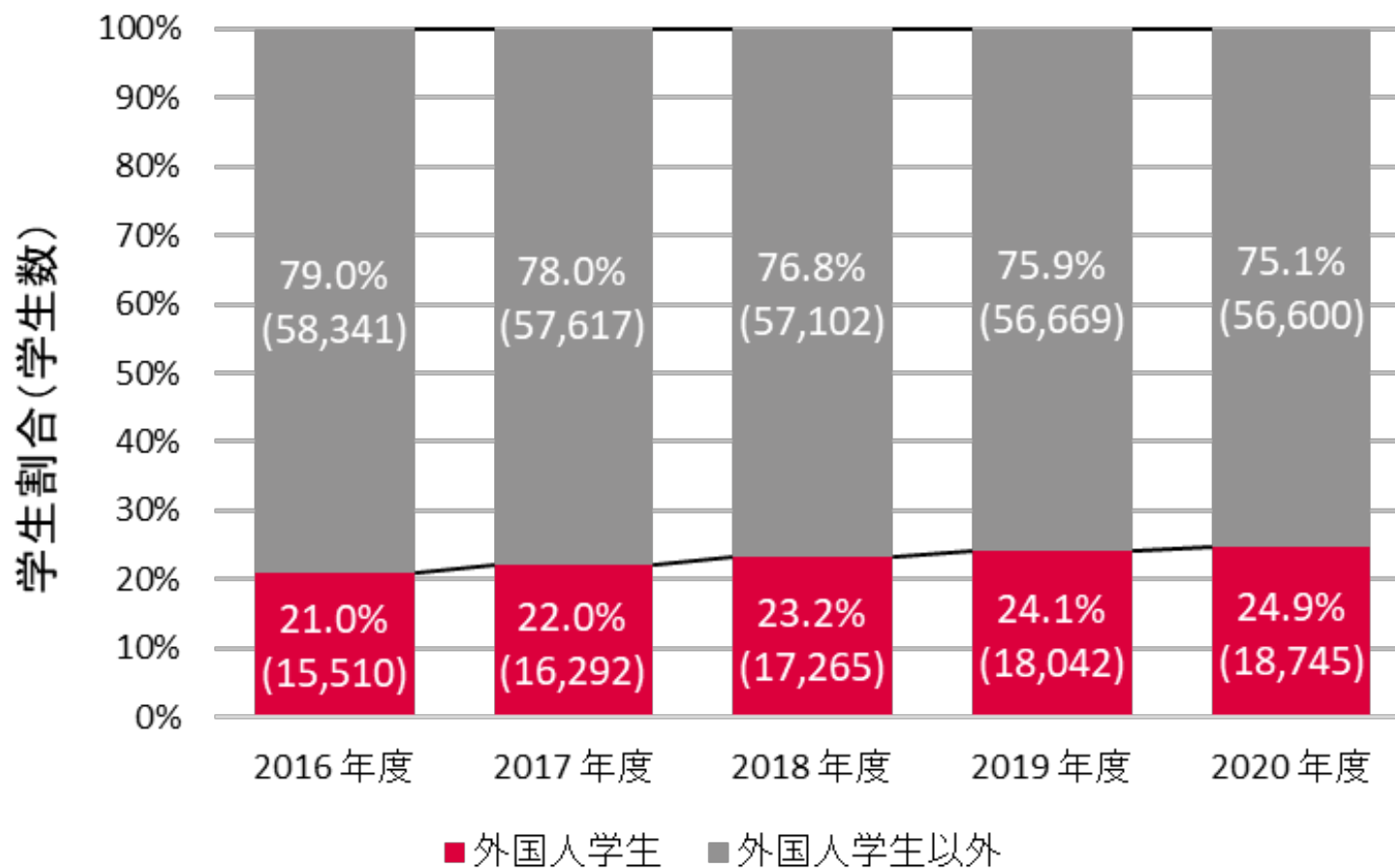
分野別外国籍比率



(出典) 文部科学省 科学技術・学術政策研究所、調査資料-304、ポストドクター等の雇用・進路に関する調査 (2018年度実績)、2021年3月

博士課程学生の外国人学生割合は増加傾向にある。

博士課程学生の外国人割合



※ 外国人：日本国籍を持っていない者。二重国籍者は日本人として計上。

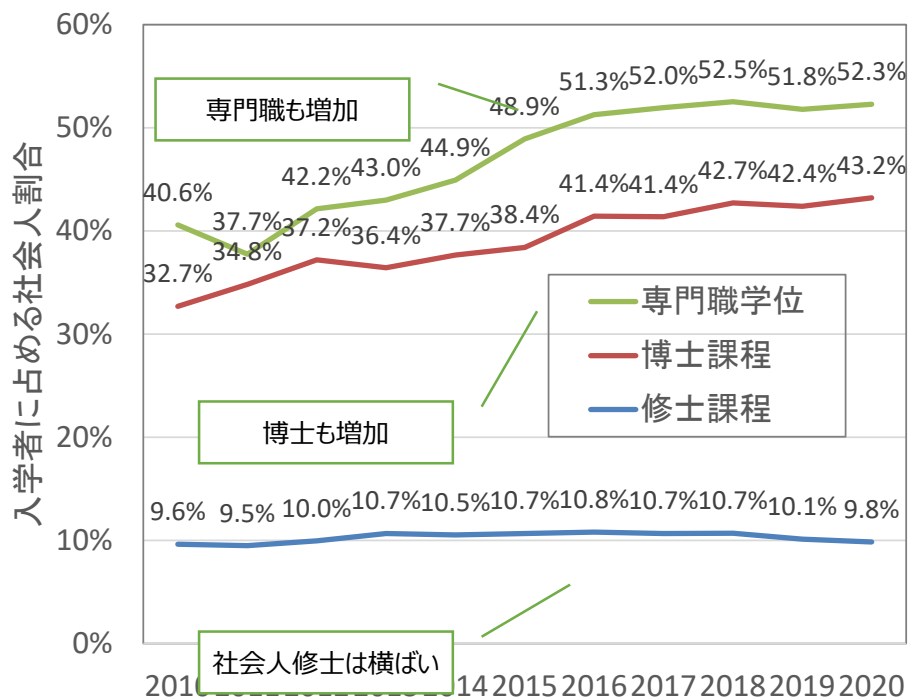
※ 「外国人学生以外」は、「博士課程 全学生数」から「博士課程 外国人学生数」を引いて算出。

(出典) 文部科学省「学校基本調査」を基に作成。

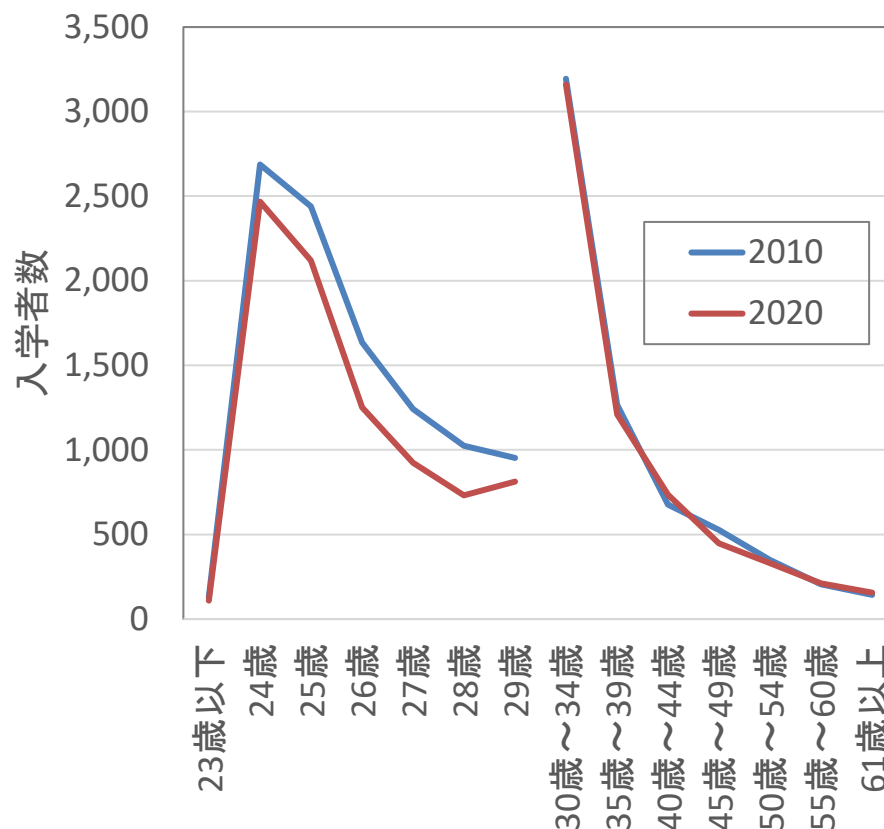
再掲

大学院学生のうち、博士・専門職はともに全般的に社会人割合が増加傾向。
年齢別の入学者数を見ると20代の入学者が減少しているが30代以上に大きな変化は見られない。

学歴別社会人学生割合の推移



博士課程入学者の年齢分布



(注) 社会人とは、(1) 職に就いている者(給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を得る仕事に現に就いている者)、(2) 給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を得る仕事から既に退職した者、(3) 主婦・主夫

(注) 「修士課程」には、修士課程及び博士前期課程(医歯学、薬学(修業年限4年)獣医学関係以外の一貫制課程の1・2年次の課程を含む。)の入学者が含まれる(出典) 文部科学省「学校基本調査」

(前述の主要指標M参照)

ヘッドカウントの研究者数は増えているが、FTE換算では2013年度から2018年度で減少した。分野によって傾向が異なり、「人文・社会科学及びその他」の減少が大きい。

学問分野	フルタイム換算値（人、括弧内はヘッドカウント値）			
	H30 年度	H25 年度	H20 年度	H14 年度
全体	63,286 (192,334)	65,661 (187,730)	64,735 (178,696)	79,604 (171,094)
理学	5,097 (10,337)	5,037 (9,868)	4,614 (9,474)	5,543 (9,678)
工学	12,820 (33,581)	13,414 (34,251)	12,938 (34,317)	16,488 (34,006)
農学	2,798 (7,019)	2,604 (6,478)	2,594 (6,484)	3,243 (6,401)
保健	19,519 (65,585)	19,838 (62,096)	20,789 (53,579)	22,237 (48,058)
人文・社会科学及びその他	22,849 (75,812)	24,610 (75,037)	23,800 (74,842)	32,092 (72,951)